

## 急性脳炎・脳症

急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）は、全数把握対象の五類感染症に位置付けられています。また、脳炎の診断基準に該当する脳症も、届出対象に含めるものとされています。

急性脳炎・脳症から同定されたウイルスは、1980年代には麻しんウイルス、風しんウイルス、単純ヘルペスウイルス等が多くを占めていましたが、2000年代にはこれらの頻度は減少し、インフルエンザウイルス、ヒトヘルペスウイルス6、ロタウイルス等が増加していると報告されています。

埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターでは、急性脳炎・脳症の咽頭ぬぐい液、髄液、便などから、症状などを考慮しながら種々のウイルス検索を行っています。2010年から現在までに検出されたウイルスについて、下表にまとめました。様々なウイルスが検出されていますが、特定のウイルスが多く検出されるといった集積性は認められませんでした。

急性脳炎・脳症患者検体から検出されたウイルス(2010～2014年)

年	2010	2011	2012	2013	2014 (5/9 現在)
検体数	25	39	37	58	31
インフルエンザ AH1pdm09	2	1			2
インフルエンザ AH3	1				2
インフルエンザ B					2
アデノウイルス	1				
コクサッキーウイルス			1	5	
ポリオウイルス		1			
ライノウイルス	1		4	3	
ムンプスウイルス	1		2		
RS ウイルス	1		1		1
パラインフルエンザウイルス	1				
ヒトメタニューモウイルス			1	1	1
ヒトボカウイルス				1	
ロタウイルス		1		3	2
ノロウイルス				1	
単純ヘルペス2			1		
ヘルペスウイルス6		3		3	
ヘルペスウイルス7			1	2	1
サイトメガロウイルス				1	
検出ウイルス計	8	6	11	20	11

流行ウイルスの把握のため、急性脳炎・脳症と診断された場合には、検体採取にご協力くださいますようお願い申し上げます。